

AI時代の特許：AI発明の保護に関する現状と課題

令和7年度特許庁調査報告書に基づくAI関与発明の法的保護の在り方、各国動向、国内意見の整理

AI技術に関連する発明の4パターン



世界の法的動向（日本・米国・欧州・ドイツ・中国・韓国）



AIを利用した発明創作プロセス



国内ヒアリング：論点別の主要な意見

AI自律発明の保護：業種で分かれる意見



発明者認定：現行基準で対応可能
企業・有識者の多くが、現行の発明者認定基準（創作的寄与）を維持すべきと考えており、法改正の必要性は低い

AI生成情報も「引用発明」になり得る
AI生成であっても技術的に妥当であれば先行技術として認めるべきだが、虚偽情報による審査の混乱を懸念する声もある

先使用权：AI自律発明の実施者にも認めるべき
公平性の観点から肯定意見が多いが、特許出願前にAIが発明していたことをどう証明するかという実務上の課題が残る